

# VOGUE

VOL.7  
A/W  
2011-2012 Issue  
ヴォーグ オム ジャパン  
ヴォーグ ジャパン  
9月号増刊

## HOMMES JAPAN

INTERVIEW WITH YOKO ONO  
オノ・ヨーコへの9の質問。

HEDI SLIMANE'S COLOR  
エディ・スリマン、“色”を撮る。

HOPE THROUGH PHOTOGRAPHY  
写真に託す希望のメッセージ。

ウィリアム・エグルストン / 荒木経惟  
ニック・ナイト / ライアン・マッギンリー

CODE OF COLOR  
デザイナーと色の関係性。  
ラフ・シモンズ / ルカ・オッセンドライバー  
クリス・ヴァン・アッシュ / 宮下貴裕 ほか

THE PATH TO KNOWLEDGE  
世界を救う、ヴィヴィアン。

歩き出せ。明るい方へ。

# FREEDOM FIGHTER



# VOGUE

VOL.7  
A/W  
2011-2012 Issue  
ヴォーグ オム ジャパン  
ヴォーグ ジャパン  
9月号増刊

## HOMMES JAPAN



### THE PATH TO KNOWLEDGE

Photography Juergen Teller  
Interview & Text Daryoush Haj-Najafi  
Editor Junsuke Yamasaki

#### 世界を救う、 ヴィヴィアン・ウエストウッド。

アクティビストの素顔。  
ヴィヴィアン・ウエストウッドのほかに、世界を変えようと試みたファッションデザイナーが一体何人いたのだろうか？ バンクをテーマに彼女がデザインした服は、単に青春や未熟なセクシュアリティ、新しい美的センスが作り出した興味深いミックスチャーではない。それは、バンクとアナキスト・ムーブメントを結びつけ、人々にショックを与え、政府を馬鹿にするともに、自分の人生の手綱は自分で握るよう人々に促すため、彼女がマルコム・マクラー

レンとアートディレクターのジェイミー・リードの共同作業によって意図的に生み出したものなのだ。これは時としてグラフィックによって表現されたものの、大部分はファッションのスタンダードな要素であるカラー、生地、そしてラインの中に見えることができた。  
活動家のバックグラウンドを持つ人にとって、現状に満足するというのは常に難しいことである。実際彼女は5年ほどの間、「アゲット・アライフ」というスローガンの下、「アクティブ・レジスタンス」というキャンペーンを行っている。この

キャンペーンにおいて彼女はマニフェスト（声明文）を出し、無知なまま行われている大量消費について触れ、それによってもたらされる恐ろしい環境破壊について説くとともに、テロとの戦いの中で忘れられた人権について語った。  
消費主義反対の立場が、ヴィヴィアン・ウエストウッドというグローバルブランドのオーナーであるという事実と矛盾していることは、彼女自身が認めていることである。しかし、道徳的矛盾がない人間などこの世にいるのだろうか？ 社会の負け犬であるよりも、成功の階段を登り詰

めるほうがいいのは当然のことである。しかし彼女は、物質的な豊かさを求めるタイプでは決していない。大きな家を手に入れる経済力があるのにも関わらず、10年前までは公団住宅に住み、現在でもスタジオに自転車に向かって、ロンドンの地下鉄に乗っている姿が目撃されている。  
もちろん、彼女がイギリスで一番有名なデザイナーであるのは間違いない。女王から勲章を受けた彼女が、全身ストッキングに身を包み、かうじてイチジクの葉の覆いだけをつけて、インタビューを受けている姿をテレビで観たことがある。そのころ10歳だった私は、自分の思ったことを周りを気にせず発言する姿に一時で目を奪われたのだ。  
政治学と経済学を大学で専攻し、人々とトレンドという存在の一体感に常に興味を持ってきたファッションジャーナリストである私にとって、活動家としてのヴィヴィアン・ウエストウッドにインタビューするというのは夢のような機会だった。プラトンは「良い人生とは何かを問うのが哲学者だ」と言ったが、少しでも才能のあるファッションデザイナーはみな同じことを問いかけている。そういう意味で、彼女の活動も実はそれほど矛盾を抱えていないのかもしれない。

今回のインタビューが容易なものになるとはもちろん考えていなかった。70歳の元バンクに偉そうな口を利けると思うほうが大間違いだ。現れた彼女は無愛想で無遠慮だったが、話をするのが好きで、とても知識にあふれた女性だった。まるでいろいろなアイデアが彼女のすぐ目の前のテーブルに置かれているかのよう、それらを手で移動させながら、「口数が多すぎるのはわかっているんだけど、話の核心に辿り着くにはこうするしかないよ」と口にする。そして突如として、15分前に尋ねた質問への回答を彼女の指がつまみ出すのだった。



# VOGUE HOMMES JAPAN

VOL.7  
A/W  
2011-2012 Issue  
ヴォーグ オム ジャパン  
ヴォーグ ジャパン  
9月号増刊

興味がないみたいね。でも、歳をとるといことは賢くなることだと思わね。よほどひどい人間でない限りは、ね。

でも「歳をとって賢くなった人間」が過激派を貫き通すことは可能でしょうか？ 古典への理解が深まったリポート意識が高まったりするとは、人を退屈な人間にしてしまふのではないかと思うのですが。

私の声明文の3ページ目にこのことに触れているわ。そういう傾向のことを私は「腐ったマルクス主義」と呼んでいるの。よく、自分のことを「左寄り」だとか「斬新的」とか「アヴァンギャルド」とか呼ぶ人がいるけど、一体何が言いたいのかしら？ 自分をそんな言葉で簡単に言い表せると思うほうが間違っているわ。なんとなく流行を追っているだけなら「トレンドイ」と呼べばいいだけのこと。みんな、物を消費すればするほど「トレンドイ」で「アヴァンギャルド」になれると思込んでいるのよ。特に自分を「アヴァンギャルド」と呼ぶ人は好きじゃないわね。「エリート」と呼ばれるにはそれにふさわしい人間になる必要があるの。大体において「エリート」という言葉の意味をみんな履き違えているわ。「エリート」はもともとはラテン語で「選ばれしもの」という意味。そこに辿り着くにはそれ相応の努力を積み重ねる必要があるのよ。

それは服でも同じですよ。僕は退屈な人間に見られるのがすごく嫌なんです。ちゃんとした大人の格好をしたいけど、頭の固い、僕らがよく「スーツ族」と呼んでいる大人には見られたくない。古臭いのは嫌なんです。

あなたはきつとスーツがよく似合うと思うわ。スーツっていうのは身体の特徴がよく出る、素晴らしい服なのよ。ファッションは自分の助けになるべきものなの。アン・ホラン

ダーという人が書いた『The Brand Suit: The Evolution of Modern Dress』という本があるんだけど、そこには「いいスーツは男をギリシヤ彫刻のように見せる」と書いてあるわ。「周りと同じになるのはゴメンだ！」と言ってパンクになる人がいるのは素晴らしいことだと思うわ。でも、それだけでは十分ではないの。

マルコムについて話してもいいかしら？ 彼が亡くなったからこそ言えることだけど、私はある頃から彼とは考えが合わなくなってしまうたの。何が理由かは知らないけど、彼はとにかく成功を渴望していたわ。そして、新しいものを発見することには興味なかった。彼は毅然としていて、活力にあふれていて、いろいろなことをやろうとしていたけど、20歳までに成し遂げたこと以外の新しい何かに挑戦することは決してなかったわ。ポップアイドルでさえ思想は必要だし、別に、何かに異議を唱えた歌を歌えっていうわけではないけど、思想というものがなければ、ただ延々と退屈な歌を歌っているだけなのよ。

80億人もの人が命を失ってしまうなんて、信じられる？

あなたにとってファッションは今でも大切なものですか？ 最近ではアクティブ・レジスタンスのことについての、インタビューを受けているようですが、私がそもそもファッション界に足を踏み入れたのは、マルコムの手助けをしたからなのよ。物作りは得意だったし、しばらく経ってから「もつと成功して人々に私の実力を見せたい」という気持ちでファッションに取り組んでいたけど、10年ほど前のことだけど、アン・ドラスと散歩をしている時に言わ

れたの。「こんなことを続けるのは止めたほうがいい。今やっている仕事が好きでないなら、何かほかのことをすべきた」ってね。そのとき、やつぱりこの仕事が好きだと思つたの。仕事はいろいろな意味でやりやすくなってきていたし、時間もあまり取られていなかったから。私の服にはまるで文学のようにストーリーラインがあるのよ。だからこそ、ずっと人気が続いたし、時代によつてはアイコンとさえ呼ばれるようになったんだと思うわ。

パンクというアイデアをあなたにファッションに取り込んだことになりませんが、同時にシヨップ、SEXの成功にも繋がりました。このシヨップの重要性とは何だったのでしょうか？

シヨップを持つことで一般の人たちと直接触れ合うことができるのは、とてもいいことよ。

40年経つた今、気候変動に注目を集めようとおあなたが活動しているのは有名ですが、あなたにとってなぜこれが重要なのですか？

人権と気候変動に対する関心はとてとても単純な関連性があるの。この美しい地球上のジャングルが次々と切り倒され、それによつてエデンの園の植物や動物が行き場をなくしているのは恐ろしいことだわ。この気候変動に関して何も対処をしなければ、今世紀の終わりには人口が10億人にまで減ってしまうと聞いてシヨップを受けたのよ。本来なら2050年には世界の人口は95億人になっているはずなのに、その後の50年の間に80億人もの人が命を失ってしまうなんて、信じられる？

誰にでもわかりやすい解決策が提示されていないからこゝで、人々はこの問題の重要性から目をそらしているんです。気候変動と聞いても退屈に思っただけなんです。私たちに実際

できることは何なんでしょう？

クールアースの活動に参加すること。熱帯雨林は絶対に救えるとは私は信じているの。彼らはまず3つの主な熱帯雨林を救おうとしているんだけど、これはお金もあまりかららないシンプルなプロジェクト。先住民の人たちと協力することによつて、たったの1ポンドで2エーカー(約8100坪)の森林を守ることができの。土地の法的な部分もちゃんと処理して、違法伐採からも森林を守れるわ。私も個人的に寄付をしたけど、彼らにもっと寄付するために募金を募っているの。でも、問題なのはお金じゃなくてシステムなの。イギリスの首相であるゴードン・ブラウンは、熱帯雨林を守るために1億ポンドを世界銀行に寄付したというのに、それを活用するためのシステムが整っていないために、そのお金はまだ銀行内に留まっていると聞いたわ。

最後に、パンク時代から、自己への反動ともいえるミニクリニ時代、保守党の女性首相、マーガレット・サッチャーのような格好をしていた時代、そして現在のアクティブ・レジスタンスを通して、あなたは矛盾と云つてもいいほど多様な活動をしてきました。「自分に常に疑問を投げかけよ」というのはあなたがいつも自分に言い聞かせていることですか？

私は脳を働かせることなしには生きていけない人間なの。アイデアを得るにはよく考えなければならぬ。そして、自分に常に疑問を投げかける必要がある。頭で正しいと思つたことが、実際に正しいとは限らないわよ。何かを書いているとき、読む人にどう思われるかなんて気にしないわ。だから何に対しても常に批評的な態度で見るようにしているの。ファッションに関しては特にそう。自分に満足してはダメなのよ。



『Vivienne Westwood Shoes, An Exhibition 1973-2012』  
ヴィヴィアンが発表し続けてきたシューズコレクション約200点をメインにしたエキシビションが、2011年12月1日～2012年1月9日、表参道ヒルズ 本館 B3F スペース オーにて開催される。会場限定アイテムの販売も予定されている。ヴィヴィアン・ウエストウッド インフォメーション ☎03-5791-0058